



2007年1月

明治大学校友会

# 福岡支部だより

● 19号 ●

明治大学校友会福岡市支部事務局 / 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4-1-2 セントラルホテルフクオカ内 TEL092-712-1212



恭頌  
新禧  
吉聲  
支部長



明大周辺地図 (明大マートで販売中)

猪突猛進





## 支部長挨拶

校友の皆様、新年おめでとうございます。今年の干支は丁亥です。干支に因なみ「猪突猛進」ではありませんが（向う見ずな猪突ではいけません）校友会飛躍の年へと猛進しなくてはなりません。何故かと申せば、新組織に改革して早や5年目に入ります。また昨年は大学が出来て125周年、そして校友会が発会して120周年の節目を迎えました。これを記念して、校友会、長年の懸案であった校友会館が、大学の英断により、旧小川町校舎跡地に12月に完成しました。名称は校友や教職員からの応募、約200件の中から「紫紺館」と名付けられました。

地上6階地下1階、事務室、大小の会議室はもとより、レストランやラウンジも備えた立派なビルで、これで校友会活動の拠点が出来たわけです。昨年12月16日に500名を超える校友が各地から参加し「校友会創立120周年記念式典」が開かれ、紫紺館も披露されました。

大学と校友会の連携強化はもとより、教育研究の支援活動を図ることを主たる目的としています。従って「明治大学教育振興協力資金」の募金を進めているわけですが、目標の10億迄まだ半分も達成していません。福岡県は割当目標が1,800万で今のところ1,500万強です。私も皆様をお願いする立場上、身の丈を越える協力をしましたが、募金達成率は83%強しか集まっています。まだ募金を忘れておられる方、知らなかった方、千円単位でも結構です。募金の協力をお願いします。

新年早々お願い事で恐縮ですが、大学界苦難の時代を迎える今、母校の発展のために、お許しを願います。校友会活動の基礎となる校友会終身会費ですが、福岡県は5,300人強の校友の内、2,900人強、54%の方しか納入されていませんので、お忘れの方は納入方よろしく願い申し上げます。

福岡支部は昨年春、7年ぶりにマンドリン演奏会

を開催し、福岡西方沖地震被害に寄付をしました。秋には2回目となる明大公開講演会を開催、多くの人が参加しました。この他、明福ゴルフ会、駿台ゴルフ会を開き、ゴルフ同好の方の参加を呼びかけています。



福岡地域支部には平成会、明志会、東の会、南の会があり昨年西の会も発足し懇親を深めています。

12月には校友の台北駐福岡経済文化事処の処長（総領事）の周碩穎（しゅうせきえい）さんの誘いで、台湾の校友会総会に有志が参加しました。例年参加している韓国同窓会も、今年は20周年という事で多くの校友が参加し、日韓親善の一翼を担って来るでしょう。

校友の方で東京に行かれた方は、ぜひ「紫紺館」を訪ねて、昼食でも又、ラウンジでコーヒーでも飲みながら、立派になった母校を見て青春時代を思い出して下さい。



明治大学校友会  
福岡県支部長

古賀愛人

（昭和18年・24年・政経学部卒）



代表取締役  
松山孝義  
（昭和60年 法学部卒）

松山建設株式会社

〒810-0011 福岡市中央区高砂2-24-23  
TEL 092-533-0001 FAX 092-533-0002  
e-mail:tm1999@pop06.odn.ne.jp



## 全国校友栃木大会

昭和30年卒の、長谷川・安永両氏に小生の3名で9月23日、「全国校友栃木大会」の前夜祭と全国大会参加のため、東武線、浅草駅で待ち合わせ、15時発のロマンスカーで、鬼怒川温泉に向いました。今回小生の手落ちで車内販売を当てにして、「魔法の水」の準備が少なく（水は重たいので）持参した少量の水で、前途の無事を祈念して「先ずは乾杯」3日間の珍道中が始まりました。

定刻、鬼怒川着、駅前のホテルの会場へ、丁度役員会が終った処でしたので、一先ず部屋に到着したものの、すぐに前夜祭開催の案内がありそのまま、会場へ。

開宴の挨拶も極く簡単に開宴となりました。福岡市地域支部からの参加者は我々の外に矢谷幹事長のみで、一寸淋しい気もしましたが、他地区の校友とも、すぐにうちとけ何時もの雰囲気溶け込んでいきました。程なく御主人がKBCに勤めていて福岡に住んだと云う女性が現れ、色々とお配りをして下さっていましたが、私が福岡の某会合で親しくお付き合い願っている元専務の園田氏のお話をしたところ、すぐに本校の理事をされている御主人を呼んで来られたので話の合間に、小生と同じ専攻で4年後輩の、長堀君も元理事でいた筈だがと話したら、今日来ておりますから呼びましょうとの事、すぐに連れて来て下さり10数年振りの再会、現在評議員会議長をしている由、久し

振りに古い友人に会えた楽しい前夜祭でした。

そして翌朝、貸切バスに分乗して約1時間で、全国大会会場に到着、開会2時間前だと云うのに多勢の人で、ごった返しておりました。

前夜の話では1,500人程の参加予定だとか県庁所在地とは云え、人口50万にも満たない都市では福岡大会会場とは比べようもない手狭な会場で、部屋の外、廊下にもテーブルを置き、会場となっております。

式典は、主催者・来賓の挨拶も簡潔に進み記念講演は、ビートたけしの実兄で、現在理工学部教授の、北野 大氏の「循環型社会への提言」と云う何だか堅苦しい演題でした。

ところが実にくだけた話し振りで、あっと云う間の1時間、これでは弟以上の話し振りだと思いました。

懇親会も手狭な会場ではありましたが、実に趣向を懲らした多彩な演出で、時間が経つのも忘れる程で「アッ」と云う間に終わった2時間で、開催地の皆さんのすばらしい持成<sup>もてなし</sup>を頂き只々感謝の中に終了した大会でした。

当、福岡市地域支部からの参加が少なかったのは一寸、淋しくはありましたが、来年は広島大会です。年に一度のお祭り、来年は多くの皆さんと参加したいものです。

(昭30 文卒 塩崎正臣)



↑多彩な演出で楽しかった懇親会



↑参加者の皆さんと



←北野 大先生の講演



## 公開講演会が開かれる ～商学部教授 水野 勝之 先生～

母校明治大学の教授が、各地方都市で講演を行う校友会主催の公開講演会が、去る9月9日セントラルホテルフクオカで行われた。今回は「大学教育における連携の必要性」と題して、商学部教授の水野勝之（かつし）先生が講演された。当日はあいにくの雨で出席者が危ぶまれたが、始まってみると会場は約150席ほぼ満席となった。

水野教授はこれからの大学は「研究・教育」のほかに、「社会貢献」が重要になってくる。つまり、研究成果から生まれた大学の「知」を、産業界はじめ全国の地域や住民などに提供するなどの貢献がおおきな役割となってくる。そのためにも



セントラルホテルの会場は、ほぼ満員に

いろいろな団体や行政と連携する事が重要になってくるでしょうと話された。

具体的な活動事例として、千代田区の「空き店舗活用支援事業」の話

しを出され、群馬県嬭恋村と千代田区の商店会が連携して、商店街の中のシャッターの閉まった店舗7件全部をオープンさせた話や、小学校や中学校で食育・金銭教育などを行っている話（明日の人材を育てる会）などされた。また、市町村長に明大OBが多い事を捉え、その現役市町村長にリレー形式で話をしてもらう「地域経済連携支援講座」の話などの興味深い話などもされた。

水野教授は1956年千葉県生まれ。早稲田大学出身だが、違う大学だからこそ明大のよさがわか



講演中の水野教授

ると話される。そして明大の力は学生であり、OBであり、明治大学の名前である。私はその明大の持っている力を日本全国に生かしたいと締めくくられ、会場から万雷の拍手を贈られた。

質疑応答のあと、懇親会に移った。講演会のテーマがやや硬い印象だったので心配されたが、聞いてみると大変興味深く切実な内容だったので、懇親会でも多くの校友からひっきりなしに話しかけられておられた。こうして今回の校友会の公開講座は大盛況のうちに終了したが、日頃勉強していないせいか、久しぶりにアカデミックな気分になった一日だった。

編 一本田博志



懇親会でもひっぱりだこ

HONDA

PARTS

Hondaの部品・用品の卸・販売会社

株式会社 ホンダパーツ西南

代表取締役社長 佐々木 義宣(昭和37年文学部卒・柔道部OB)

本社 〒816-0092 福岡県福岡市博多区東那珂3-2-12

TEL 092-433-0433

営業所 福岡・北九州・大分・佐賀・宮崎・鹿児島・山口



## 第1回台湾支部同窓会

明治大学校友会台湾支部2006年総会が12月2日(土)に開催され、福岡県支部より総勢12名が初参加しました。

12月1日朝10時、福岡空港より一路台湾へ。2時間半で台北の台湾桃園国際空港(中正国際空港)に到着、バスで台北市内に向かいました。



故宮博物院前で

そして台北松山空港から35分ほどの空旅で本日の目的地花蓮空港に到着。花蓮は皆様もご存じの校友周・碩額氏(台北駐福岡経済文化弁事処 処長)の出身地であり、風光明媚なリゾート地として知ら

れています。ホテルの部屋から海辺の景色を堪能した後、夕方より地元アミ族の文化村を訪れ舞踏鑑賞、最後には諸先輩も踊りに参加され楽しい一時を過ごしました。

翌2日は朝から台湾でも有数の観光地「太魯閣渓谷」を見物。大理石の山々が急流が浸食した渓谷のスケールの雄大さと絶景に圧倒され続けの一時でした。昼食後、花蓮に戻り特急列車「自强号」にて台北へ。小雨の中、台北駅に降り立つと肌寒さに思わずビックリ、早々にバスに乗り込み国賓大飯店(アンバサダーホテル)に到着。ロビーで顔光南幹事長の出迎えを受けた後、部屋でスーツに着替え18:00に同窓会会場に向かいました。

総会の来賓としては、青木校友会会長、大淵副会長、島倉総務委員会副会長、高品川支部幹事が東京より、韓国からは朴幹事長(支部長代行)以下4名、そして私達福岡県支部から



太魯閣(タロコ)渓谷にて

私達福岡県支部から箱笠団長以下12名、更に明大校友台湾駐在者の集まりである白雲会7名、明治大学と姉妹校提携を行う中国文化大学から2名と国際的な構成。台湾支部は葉

潜昭支部長以下41名が参加し華やかな総会となりました。

総会は葉台湾支部長の挨拶で始まり、引き続き今年8月急逝された韓国支部長である黄明水氏への霊祀黙禱が行われました。

来賓挨拶は始めに青木校友会会長、朴韓国支部幹事長、引

き続き我が福岡県支部箱笠副支部長、李文化大学校長の挨拶と日台韓の国際色豊かな挨拶が続きました。

引き続き懇親パーティーが開催され、各テーブルからは「乾杯」「乾杯」の賑やかな声と共に紹興酒のグラスを合わせる音が響いてきました。

乾杯の回数が増えるにつれ会も和み、台湾校友との歓談や名刺交換が進みました。また韓国校友諸氏とも半年ぶりの再会しかも台湾の地での再会を祝し杯を重ねながら、今後は福岡、ソウル、台北で互いに美酒を酌み交わそうと約束を交わしました。会はその後、蔡三兄弟(蔡育奇、育建、育欣、共に工学部卒)の表彰式へと移りました。日本でも明治大学に一家3人が進むのは珍しいのに、台北でその表彰に出会うとは奇遇な思いでした。会も終盤となり上杉先輩の指揮による校歌斉唱、島倉氏による万歳三唱により恙なく閉幕となりました。名残は尽きなかったのですが葉支部長よりお土産の「金門高粱酒」を頂き会場を後にしました。福岡県支部からは初めての参加でしたが心温まる歓迎を受け、今後この交流を大切に続けていかなければと心に誓いました。

翌3日は台北見物。世界一の高さ(508m)を誇る台北101ビルを始め市内散策を楽しみました。夜はこの旅行中に誕生日を迎えられた内田先輩の誕生祝いの会が開催されました。異国の地で明大校友に囲まれた誕生日はいかがでしたか?先輩。

台湾支部、韓国支部、校友会本部との絆を深めた第1回台湾支部同窓会旅行も最終日の4日を迎え、顔幹事長の見送りを受け帰国の途につきました。帰りの飛行機の中で、全国交友会支部の中でも唯一海外支部との定期交流実績を持つ福岡県支部の一員であることの幸せと責任を改めて感じながら戻って来た次第です。

(昭52 商卒 佐藤洋)



式典終了後、台湾・韓国・日本全員で記念写真

**ダイニッカ株式会社**

市場開発本部

内田 紀生

(昭和40年・法学部卒)

〒813-0062

福岡市東区松島3-3-5

TEL (092) 621-1631(代)

FAX (092) 621-1635

**しみず住宅(有)**

代表取締役 清水 保一

(昭和34年・法学部卒)

福岡市南区大楠1丁目28-19

TEL (092) 531-3746

FAX (092) 526-1022

活魚料理 食事処

**杉庵**

会長 上杉 鷹雄

(昭和33年・商学部卒)

〒813-0062

福岡市東区松島3-16-11

TEL 611-7284



## 第10回東京6大学OB会ゴルフ会

このゴルフ記事を楽しみにしてくださっている皆さん、ご無沙汰いたしました。59年工学部卒 佐野です。春の大会でたいへん良い成績を残して大口をたたいてしまったせいか、そのバチが当たって大事な秋のシーズン直前に腰を痛めてしまい駿台、明福、そしてこの



明大ゴルフ部出身の桜木校友も参加  
(右から2人目)

6大学コンペに参加できなくなっていました。

選手としての参加は叶いませんでしたが、今回の6大学では幹事役に徹して選手団のサポートをさせていただきますました。

さて、大会は11月11日、ザ・クラシックゴルフ倶楽部にて開催され、東京6大学各校の選りすぐりの選手が卒業校の名誉を懸けて、途中で雷によるプレー中断もあった荒天の中、熱戦を繰り広げました。今回は明治初の女性選手の参加もあり一層盛り上げてくれました。

そして、その結果は場所を都ホテルに移して発表となりました。

各校上位5名のネットスコア合計で争った結果、優勝は慶応、準優勝は法政、我が明治は3位という結果

になりました。しかし、上位3校の成績は0.2ストロークの差しかなく、2位法政とは同ネットという結果的には白熱した大会でした。又、都ホテルでの懇親会では骨髄バンク支援のチャリティーを行いました。

今回も校歌を高らかに歌うことはできませんでしたが、選手の皆さんは死力を尽くして頑張ってくださいました。

また、今回は明治が幹事校を務めましたので、若手の皆さんや女性陣にも協力をいただきました。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

来年の東京6大学コンペまでには腰を完治させて、私が明治を優勝に導きます。(すいません、いつもの遠吠えでした。)

編一 佐野貞和



美女達のチャリティー募金も盛況でした



懇親会終了後、参加選手とスタッフ

## 第30回明福ゴルフ会

昨年度は大雪のため開催できなかった反省から、今年は雪の心配がいらぬ志摩シーサイドカントリークラブにて、第30回の明福ゴルフ会が12月12日(火)早朝より行われました。時代の流れなのでしょう、いつものゴルフ会メンバーが、ケガや病気、それとも老化現象・・・?で多数欠席のなかで、新人2名を新たに迎え入れたものの、総勢11名といささか寂しい顔ぶれでしたが豪華賞品をめざして、みな元気にスタートしました。誰もが優勝または取組になりそうな、シーサイドコース特有の強風をものともせず、前半4オーバーで折り返しの校友、ニアピンパーティなどレベルの高い大会でありました。プレイ終了後、恒例の表彰式を兼ねた忘年会には、ゴルフに出席できなかった校友の参加もいただき、楽しい1日を過ごすことができました。

## 明志会 忘年会

伝統の一戦ラグビーの「明早戦」は残念ながら43対21で敗れましたが、復活の兆しが見えた一戦でした。久しぶりに勝利の美酒と相成ればと翌日に企画した明志会忘年会。天神西通りの大福うどん店で15名の参加者が集まりました。ゲストスピーカーの坂本毅(平成3年卒)校友は、青年海外協力隊に参加し3年間でモンゴルで日本語教師をされた経験を持

私(記者)は、夜も明けぬ早朝から諸先輩方をお迎えにあがり、受付をして、1日お世話をさせていただきましたが、そのご褒美なのでしょうが、久々に43・41の好スコアでラウンドでき、ベストグロスと優勝の霜降りステーキ肉を手にしたのは、56年卒 鈴木弘幸であったことを最後に付け加えさせていただきます。

(昭56 政経卒

鈴木弘幸) やる気満々のスタート前の皆さん



ち、現在は内モンゴルの商品の輸入販売会社を営まされています。当日はモンゴルでの体験談を話してもらいました。最後は平成卒の若手から昭和40年卒の大先輩までが校歌斉唱。来年の忘年会は本当に勝利の美酒に酔いしれたいものです。

(昭59 政経卒 松本靖明)



## 「西の会」が発足しました

福岡市地区支部「西の会」(会長・井手安美・昭31工卒)が発足しました。10月14日(土)発足総会が室見川沿いの割烹「三四郎」で開催されました。8月中旬に設立準備会を立ち上げ、木原正勝先輩の正道館を本拠とし井手安美先輩を中心に、大藤勝先輩・田中久也先輩・国友明德先輩・麻生昭雄先輩・木原園枝先輩・井手健らで数回の打合せが精力的に行われました。「西の会」は西区と糸島地区3市町村の校友(約250名)の広い親睦を目的としています。発足総会には、古賀愛人支部長をはじめ先輩格の「東の会」「南の会」より役員のご来賓をいただき盛大に開催されました。参加者は日ごろの校友会では常連の諸先輩方をはじめ、今回は発足にあたり対象地区の全校友に案内状をだしたところ、校友会に初めて参加したという方も3名おられ、広く校友の輪を広げる目的も果たせました。初参加とはいえそこは校友すぐに打ち解けられ、聞けば住まいが近所だったり地域特有の話題もあり、談笑の輪がすぐに盛り上がり幹事が予定していた各人の自己紹介が割愛されるほどで、あっという間に予定時

間が過ぎてしまいました。最後は恒例の校歌が初秋の室見川の水面に心地よく流れていきました。今後は福岡西地区の校友の交流を盛んにすべく年3~4回の開催を目標に多彩な行事を計画していこうと幹事全員張り切っています。西地区校友の奮っての参加と皆様のご支援をよろしくお願い致します。

(昭49 工卒 井手健)

\*「西の会」事務局：福岡市西区愛宕浜2丁目16-7  
「木原正勝正道館」  
TEL 092-891-9956



「西の会」発足の祝辞をのべられる古賀支部長

## 明治大学校友会創立120周年記念式典 校友会館「紫紺館」完成

平成18年12月16日「アカデミーホール」約500名の出席者で開催されました。

1886年に校友会規則が制定され、母校の発展と歩みを共にし、本年で120周年を迎えました。式典は、物故校友に黙祷を捧げ、国歌斉唱の後、校友会青木信樹会長の式辞、学校法人明治大学・長吉泉理事長・納谷廣美学長・明治大学連合父母会栗原聖宜会長の祝辞が述べられました。記念講演では、校友会名誉会長・元内閣総理大臣村山富市先輩が「日本とアジア」(日中交流から見えるもの)と題し、熱弁をふるわれました。大学万歳、校友会万歳を唱和し、声高らかな「校歌」で式典の部は終了しました。2階に会場を移し賑やかに懇親会となり、「明治大学マンドリン倶楽部OB会」が古賀メロディーを、そして現役応援団が元気よく宴に華を添えてくれました。応援団現役2年の東福岡高校出身「元主雄一君」が頑張っていました。懇親会終了後、校友の拠り所となる校友会館「紫紺館」の見学会が行われました。平成19年1月9日から利用可能となります。校友会本部、校友課が入る2階事務室の他に、数々の会議室、そして「椿山荘」が担当するレストラン・ラウンジが5階・6階にあります。同窓会や、校友との会合に利用が期待されています。

校友会館は校友会の多年の念願でした。校友会独

自での建設には、色々な面で莫大な経費がかかり、到底実現不可能でしたが、大学の土地に大学が建設し、校友会が利用する形で、校友会館「紫紺館」が完成しました。これからの少子化の中で、明治大学が存続して行くためには、大学・校友会の連携が一段と重要になります。大学の英断に対し、校友会は教育資金を支援することで応える事に決定し募金活動を行っています。是非、趣旨をご理解いただき、金額は問いませんので「明治大学教育振興協力資金」にご協力をお願い致します。(幹事長 矢谷学)





## 平成会忘年会

平成卒の校友で構成される平成会の忘年会が11月25日(土)、親富孝通りの「兼平鮮魚店」で開催されました。今回は土曜日ということもあり久留米支部から川田、中井両校友なども参加していただきました。また、校友が校友を呼び飛び入り参加も2名とうれしい悲鳴。

20名を超える若者(上の方の学年は若者にはちょっと苦しい)が集まりました。

かたぐるしい挨拶もなく、工藤校友の乾杯の音頭で会はなごやかに開始。おいしい魚をばくつきながら、ピッチャービールをかたむけながら、学生時代の話、仕事の話、はては男女の好みのタイプまでわいのわいのと盛り上がりました。

そんな一次会では飽き足らず、二次会にかなりの

人数が参加、大名の「フィール」というおしゃれなお店にもかかわらず、ぎゅうぎゅう座ってみんなでもたまた大騒ぎ。

まわりのお客さん、うるさくてごめんなさい状態。おしゃれなカクテルをがががあける集団でした。その後、まだ元気な数名がカラオケに突入。おなかごよまれる程、笑って歌ってたら午前様でした。

平成会は今、平成16年、17年卒がどんどん参加してきています。また、東京などからの転勤族も参加してきています。この博多の地で若い校友達と飲んで語りましょう。

是非是非、平成卒の校友はご参加ください。

編一 高野礼子



11月の末なのに半袖、若いな～



↑おかしな二人

←桜木さんと三井さんのツーショット

## ラグビー明早戦 明大スポーツ新聞記者観戦記

明早戦は43-21と早稲田に負けてしまいましたが、昨年よりも成長した紫紺の戦士たちを見られたのではないのでしょうか?自分たち明スポも当日に決戦前号外を発行しました。前日のジャージ授与式の写真などを使い1日で新聞を作るという初めての作業に戸惑いながらも無事完成し国立で配ることができました。

今年は、藤田ヘッドコーチがチームの再建を行いました。「まずは自分たちのプレースタイルを作ることから始める」(藤田HC)と言うようにFW中心の明治らしいラグビーに「原点回帰」。その結果、対抗戦ではスクラムトライやモールでトライを量産し徐々にスタイルを確立してきました。明早戦では残念な結果になってしまいましたが、大学選手権では年を越えて決勝まで勝ち進んで欲しいと思います。決勝まで順当に勝ち進めば、早稲田との再戦が待っています!日和佐主将(営4)をはじめとする選手たちも「早稲田にリベンジして優勝する!」と

意気込んでいますので、もし時間があれば博多から国立に足を運んでください!

(政経2年 高山展啓)

※12月3日の夜のスポーツ番組すぼると(TNCフジテレビ系列)に明スポが少し映りました。

明大スポーツホームページ <http://www.meispo.net/>



紫紺のラグーシャツの復活も近い



## 福岡明治春日野会

今年も大相撲の締め場所、九州場所が始まりました。去る11月1日に校友の春日野親方、栃の花関、谷村マネージャーを迎え福岡明治春日野会を開催いたしました。まず小石原会長の九州場所へ向けての激励のおことばから始まり、明大相撲部ご出身の中津留先輩が乾杯の音頭を取られ、なごやかな歓談になりました。春日野親方からは、若手力士が育つなか今年の国体で優勝した選手やグルジアの銀メダリストなど、有望力士が入門予定との近況報告がありました。今後ますます楽しみです。また、昨年

九州場所で見事敢闘賞を受賞した栃の花関からは今場所にかける決意表明がありました。験のいい場所ですのできっといい成績を上げる事でしょう。締めは上杉世話人にお願ひし盛大なエールで応援する事ができました。最後になりますが、来年の春日野部屋は力士が増えている事としますので、来年は皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

(昭60 政経卒 赤壁幸哉)

(ちなみに栃の花関は8勝7敗で勝ち越しました)



春日野親方(左)、栃の花関(右)



栃の花関を囲んで

## 武雄山関を励ます会

大相撲九州場所前の11月上旬、明大出身のもう一人の力士 武雄山関を励まそうと若手の有志が激励会を開いた。武雄山関は一昨年の全国校友福岡大会にもわざわざ挨拶をしにきてくれたが、その前へ前へという相撲と実直な人柄で福岡の校友にもファンが多い。

武雄山関は平成7年卒で、当日はその前後の卒業校友を中心に12人が集まり、近況を聞いたり学生時代の事を話したりで盛り上がった。席上、武雄山ファンの矢谷幹事長から激励のことばが送られた。

最近はずりや肩の怪我で調子がいま一つの武雄山関だが、東前頭筆頭や2場所連続での敢闘賞受賞など輝かしい実績もあり、また最近結婚されたと

のことで今後の再起と活躍を大いに期待し応援したいものである。



がんばれ武雄山!



明治大学出身の政治家はたくさんいらっしゃいますが、40歳で大学に入学し、在学中の3年時に国会議員になったという稀少な経歴の松山まさじ参議院議員を、今回の校友クロースアップに取り上げてみました。40歳でなぜ？何で明治大学に？またどういう考えで政治の道に？などいろいろと語っていただきました。

参議院議員の松山まさじでございます。校友会の一員



卒業式の日本武道館前で

として今日までお支えを頂いておりますことに心より感謝と御礼を申し上げます。

まず、私が明治大学を受験した動機から申し上げたいと思います。1987年・

27歳の時に青年会議所に入会し、13年間国内外でボランティア活動をさせて頂きました。40歳になる1999年に日本青年会議所の第4代会頭に就任する事になり、当時の会頭としての所信への決意と自分自身への挑戦として、企業人の身でありましたが明治大学を受験し、その99年の春から明治大学へ入学することになりました。

青年会議所のボランティア活動をしていく上においては、とにかく行動していくことこそが若者の得意技であり、使命であり、地域をそして日本を変えていくには、まずは若い人たちが目の前の出来る事から行動していく事こそが求められている。まさに、「動く」ということの重要性を掲げ、会頭として全国の会員に言い続けようと前年の98年に立候補を決意し、日本青年会議所の会頭に就任致しました。

全国の青年会議所の会員に「本気で動け！」と言うからには自分自身も本気で動かなければならない、何か自分に修練の場を与えよう、そんな思いで家内にも友人にも誰にも言わずに「地域に根ざした在野精神」の明治大学商学部にて社会人入学の枠を見つけて願書を提出させて頂いたのです。

合格するとは思っていませんでしたので合格通知を頂いたときには大変感激を致しました。どんな困難があっても卒業をしようという強い意志を持って99年の春から通学するようになりました。

社会人枠と言っても少人数で、履修も現役の新入生と全く同じです。クラスのほとんどが高校からストレートで入学した人ばかりなのでかなり戸惑いもありました。しかし私にとっては今の時代のど真ん中で専門課程を学べ、彼らの思いや、将来への考え、地域や或いはこの日本という国に対しての思いを彼らなりの言葉で聞く事が出来た有意義な時間でした。年2回の前期と後期の試験の日に仕事が重なったり、青年会議所の予定が重なったりと思うように行かず6年の月日がかかりましたが、やっと2005年の春に卒業する事ができました。入学する時は青年会議所の副会頭や専務理事や仲間たちが日本武道館で入学式を見守って頂き、卒業式には家内と明早戦ではライバルだった（笑）早稲田大学に行っていた長男が見

守ってくれるというそんな最初と最後が思い出される生涯忘れる事の出来ない6年間となりました。

入学をして3年目の2001年の参議院議員選挙に出馬することになりました。それは青年会議所時



安倍総理と

代に、全国各地からの教育に対する声、社会行政に対する声、更には中小企業或いは小規模事業者の声を政府に届ける、特に小淵総理には何度もお会いし、伝えました。そんな中で政治の役割、この日本を動かし、豊かで平和な社会を構築していく上で政治の役割は極めて重要であり大きい、青年会議所最後の年にトップリーダーとして感じていたその事が決意する大きな要因でございました。そういった意味では「地盤・看板・かばん」と言われるようなものほとんど無い中に「ここから、今から」スタートしてみようと、そんな思いで自分たちの「世代としての使命と責任」を政治家として全うしようと思ひ決意を致しました。私の所信にも「世代としての責任と使命」、そして「ここから、今から」というスローガンがポスターにも貼られた決意と心構えでありました。

この間幸いにも自由民主党の副幹事長や国会対策委員会の副委員長などの要職を担当させて頂き、この9月の安倍新政権下では経済産業大臣政務官を拝命致しました。まさに経済を地方の隅々まで元気に活性化する、そんな役割であります。「経済活性化のためにしっかり頑張ってくれ」という総理の言葉を頂き、懸命に頑張らせて頂いているところであります。

また、余談ですが、学生時代にやっておりましたプロを目指そうとさえ思った音楽の経験を利用して、「ギインズ」と言うバンドを国会議員4名で結成し、骨髄バンクの支援、チャリティー、あるいはコソボやスマトラやバキスタン地震等国内外の緊急支援のチャリティー活動として、自分たちで歌を作り、歌を通じてメッセージを多くの人に聞いて頂こうと、そんな思いで年に数回活動を致しております。先日開催された6大学対抗ゴルフコンペでは、骨髄バンクへの寄附をいただき、心から御礼を申し上げます。

2007年の夏は2期目の再選に挑戦します。時代は、明治維新、戦後に次ぐ第3の大変革期と言われておりますだけに、政治の役割は極めて重要であります。明大校友会の一員という誇りを持って粉骨砕身政界にて頑張りたいと決意を新たに致しております。

明治大学の発展と校友会の諸先輩方のご健勝ご発展を心から御祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



「ギインズ」の演奏風景



## 校友紹介 ～坂本 毅さん～

明治大学を平成3年に卒業後、青年海外協力隊員としてモンゴルで3年間、日本語を教えてきたという貴重な経験をお持ちの坂本校友のお話を聞くことができました。大変興味深い話でしたので今回皆様にご紹介させていただきます。

### 「縁」が「縁」を広げ、「縁」が「縁」を結ぶ 坂本 毅 (H3卒、商学部商学科)



私は青年海外協力隊員として1991年7月から3年間、中国内モンゴル自治区オルドスモンゴル族高級中学で日本語を教えました。派遣前、モンゴル族というイメージが、騎馬民族の荒々しいイメージがありました。モンゴル族のしかも悪戯盛り的高校生に小柄で童顔の私が果たして教師としてやっていけるのか、生徒に受け入れられないだろうか、不安で一杯でした。しかし初めての授業で、私の印象は180度変わりました。生徒たちの生き生きとした目、学校中に轟く「あいうえお」のコーラス。しかし一人ずつ当ててみると真っ赤になって蚊の鳴くような声しか出ない。「まじめで素直ではにかみ屋」、私はそんなモンゴル族の生徒がいつべに好きになりました。

生活面ではかなり苦労しました。私の部屋にはトイレやシャワーはもちろん水道さえありません。近くの水場まで水を汲みに行くのが毎朝の日課でした。トイレは公衆トイレ、風呂に入りたければ、自転車で15分かかかる銭湯に行っていました。マイナス20度以下になる冬のトイレや銭湯は辛かったです。しかし生活についてはすぐに慣れました。当時一番辛かったのは周りの人がなぜ私がオルドスで日本語を教えているのかを理解してくれなかったことです。当時、任地の人はボランティアという概念が理解できなかったようです。「モンゴル語を勉強しに来た日本の若者？」或いは「日本で何か悪いことをして日本から逃げてきた日本人？」或いは「下放された



モンゴルでの授業風景

たかわいそうな日本人？」など、いろんなうわさが飛び交っていたようです。私の誕生日の時も、生徒たちからもらったプレゼントはケーキや花束ではなく、今では使われなくなった食糧配給券「糧票」でした。しかも生徒全員が自分たちの使う分を「かわいそうな日本の先生」のために少しずつ出し合ってくれたということを知り、別の意味で涙が出てきました。

いろいろ問題は抱えながらも、素朴な生徒たちに囲ま

れ楽しく活動を進めました。そして、オルドスの人たちとの交流も徐々に深まってくると、オルドスが抱える深刻な問題、「砂漠化」のことについても深く考えるようになりました。実際、生徒たちから聞いた数々の砂漠化の話にはすさまじいものがありました。砂丘に家を呑み込まれて、移転を余儀なくされた者もいました。どうやったらこの砂漠化を食い止めることができるのか、ずっと考えてきました。高校1年から教え始めた生徒たちを卒業まで見届けたい。そんな思いで1年延長。あっという間に時は流れ帰国。楽しい思い出をたくさん作りつつ、重い宿題を背負ったような気がしました。

それから9年経った2003年夏。オルドスで同窓会が開かれ、たまたま僕も参加することになりました。私が教えていた生徒たちはいつの間にか立派な大人になっていました。オルドスで教師になったり、医者になったり、弁護士になったり、村長さんになった人もいます。みんなオルドスでがんばっています。「これから自分のできること、それはオルドスと日本を結ぶこと」その時ふと、そう確信したのです。

そして私は去年、個人事業を立ち上げました。内モンゴルの岩塩や重曹などの天然素材を砂漠緑化商品として販売し、売上げの一部をオルドスの砂漠緑化に役立てるという事業を。またまた派遣されたオルドスという地域。そ



モンゴルの大自然の中で皆さんと

こでの「縁」を活かしてオルドスの「縁」を広げていけたらいいなと思っています。そして緑化事業を通じて新しい「縁」が広がっていくことを楽しみにしています。つい最近のことですが、オルドスで知り合った少女が10数年後明治大学に留学し、今年の留学生日本語スピーチコンテストで優勝しました。オルドスの縁から広がるこの物語はこれからもずっと続いていきます。詳細はホームページに載せていますので、是非一度ご覧ください。

(<http://www5f.biglobe.ne.jp/~ordos-banben>)「オルドスの風」で検索してください。

#### 略歴(坂本 毅)

- 1991年3月：明治大学商学部商学科卒業
- 1991年7月～1994年7月：青年海外協力隊隊員として中国内モンゴルに赴任。オルドスモンゴル族中学で日本語を教える。
- 1995年～2000年：大阪で中国関係の仕事に就く。
- 2001年2月～2004年2月：JICAボランティア調整員として中国北京に赴任。
- 2004年9月：個人事業「バンベン」を設立。
- 2006年2月：有限会社バンベンを設立。現在に至る。



## 校友会福岡ホームページ開設！

8/31より「明大校友会福岡」のホームページを立ち上げました。

アドレスは、<http://www.meidai-fukuoka.jp/> です。

ホームページ委員は平成会幹事を中心に構成しております。

まだホームページ自体は不完全なものです。福岡県支部の役員・福岡市地域支部の幹事のご紹介はもちろん、福岡市地域支部の歴史なども見ることができるようになっています。また校友からのお知らせや、様々な活動なども随時更新しご紹介したいと考えています。

校友の皆様のご意見などを反映し、校友会本部・各県校友会との連携を強化するためのツールとして、これから更に充実していきます。

また校友皆様からの貴重なご意見を下記アドレスにてお受けいたします。

[meidai@nsk-ad.jp](mailto:meidai@nsk-ad.jp)

(平8 文卒 石迫弘久)



## 平成19年 新年交礼会のご案内

恒例の新年交礼会を下記の通り開催致します。ご多忙とは存じますが、多くの校友と共に新年を祝いたいと思っておりますので多数のご出席をお願いし、ご案内申し上げます。

■日 時／平成19年1月25日（木）18時30分

■場 所／セントラルホテルフクオカ 3Fダイヤモンドホール

(福岡市中央区渡辺通り4-1-2 TEL.092-712-1212/FAX.092-761-8980)

■当日会費／5,000円（但し、女性校友及び平成11年卒以降の校友は4,000円）

問い合わせ先／事務局 矢谷 学（昭50法） TEL.092-631-3336（三栄印刷）

## 編集後記

校友の皆様 新年明けましておめでとうございます。

昨年、明治大学校友会は創立120年を迎えました。福岡での公開講演会で水野先生は「明大の力は学生であり、OBであり、明治大学という名前である」と話されましたが、この言葉はまさに学校、学生そして校友会の120年の歴史があったからこそこの言葉だと思えます。次の120年に向けて、これからも明治大学のネームバリューアップに校友会として支援していきたいものです。

ところで、前号の記事で母校の字が間違っているとある先輩からご指摘を受けました。確かに間違っており、深くお詫び申し上げます。今後、より一層気を引き締めて紙面づくりをしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。ま

たいつもながら広告にご協賛下さいました校友の皆様さま、ありがとうございます。お礼申し上げます。

さて、今年の干支は亥（猪）。イノシシという干支の特徴は「勇気と冒険」だそうです。「冒険心」をもって今年もチャレンジしていきましょう。

編集委員長	本田 博志 (昭52 法)
委員	佐野 貞和 (昭59 工)
〃	緒方 弘臣 (昭60 法)
〃	三井 成隆 (平4 商)
〃	今井 葉子 (平4 管)
〃	石迫 弘久 (平8 文)
校友会事務局	矢谷 学 (昭50 法)
〃	高野 礼子 (平元 法)

機能だけではなく、  
快適という基準  
今からのまちに必要だと思う。  
誰もが感じる気持ちよさ  
これからもいろんなところで  
カタチにしていきたい。



いつも人が  
発想の原点。

株式会社 **松本組** 代表取締役社長 松本優三 (56年商学部卒)

[本社] 〒812-0054 福岡市東区馬出1丁目1番19号 TEL.092-651-1031 (代)